

苫小牧CCS促進協議会



- ▶ 2010年4月、CCSに係る地元誘致の理解促進と気運の醸成を図り、地球環境と地域産業活性化が両立可能な低炭素社会構築を目指し、市民や地元企業など地域一体となった取組の推進を目的とし、「苫小牧CCS促進協議会」を設立。
- ▶ 会長は苫小牧市長、副会長は商工会議所会頭及び石油資源開発㈱北海道事業所長、会員は地元企業、有識者、 苫小牧漁協等で構成。(事務局は苫小牧市産業経済部港湾・企業振興課)※当時
- ▶ 協議会設立後、2010年度~2011年度は、国への要望活動等の誘致活動を実施。
- ▶ 実証試験地が苫小牧に決定後は、地元理解の促進に向け、現場見学会の開催、日本CCS調査㈱が実施する各種イベントへの共催、促進協議会通信の発行など、広報・周知活動を実施。
- ▶ 2020年9月、2021年10月、2度の改組を経て現在は苫小牧CCUS・ゼロカーボン推進協議会として活動。

【苫小牧CCS促進協議会の主な活動内容】

- 苫小牧での実証試験誘致に向けた国等への要望活動
- 苫小牧CCS促進協議会理事会・総会の開催
- 広報紙(CCS促進協議会通信)の発行や「広報とまこまい」を 活用した情報発信
- 市民及び促進協議会会員向けの現場見学会の開催
- 日本CCS調査㈱主催のイベント(現場見学会、こども実験教室、講演会等)への共催
- CCS講演会「地球温暖化とCCS」・CCSフォーラムの共催
- 市庁舎への情報公開モニター設置協力





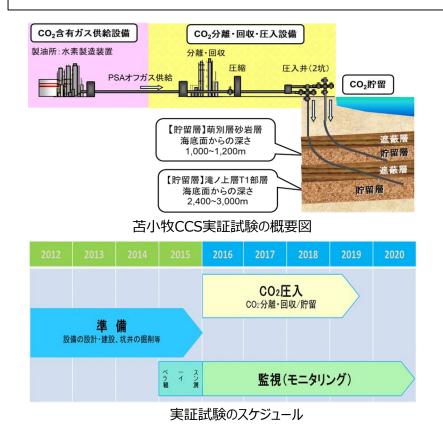




ステークホルダーの協力



- ▶ 「苫小牧におけるCCS大規模実証試験」においては漁業関係者をはじめ多くの関係者のご協力のもと、当初目標の30万トンの圧入を達成。
- ▶ 当該実証では、海岸より3~4キ□離れた海底下の異なる深度の地層に圧入貯留を行った。
- ▶ そのため、苫小牧漁業協同組合様には、事業開始前の当該海域関係者への説明や調整、事業実施期間中の海域での業務等に多大なるご支援を賜った。
- ▶ 令和4年1月に荻生田経済産業大臣(当時)が苫小牧市のお越しになり市長を表敬訪問された際には、漁業関係者及び苫小牧漁業協同組合関係者に、実証への協力に対しての謝辞を述べられました。





令和4年1月 左から岩倉苫小牧市長、萩生田経済産業大臣(当時)、 伊藤苫小牧漁業協同組合長

先進的CCS支援事業



【令和5年度先進的CCS支援事業】

予算:35億円

内容:事業化調査(CCS事業化に向けた貯留地の事前調査、エンジニアリングに関する予備的検討)

試掘準備(試掘位置選定に係る技術検討、各種準備作業)

▶ CO2の回収源、輸送方法、貯留地域の組み合わせが異なる7つのプロジェクトから支援を開始。

▶ 2030年までに年間貯留量600~1,200万トンの確保に目途を付けることを目指す。

〇出光興産、北海道電力、石油資源開発の3社が共同検討を開始

<参考: 苫小牧エリアにおける3社事業拠点>



- ➤ 出光興産、北海道電力、石油資源開発の 3社が北海道・苫小牧エリアにおけるCCUS 実施に向けた共同検討を開始
- ▶ 苫小牧エリアの複数の地点をつなぐハブ&クラスター型CCUS事業を2030年度までに立ち上げることを視野に、CO2排出地点とCO2回収設備、CO2輸送パイプラインに係る技術検討、CO2貯留地点の適地調査などを中心に、具体的な調査・検討を進める。

出典:各社HPより